



未来を選択する力を身に付ける テキスト

・ 財政問題を考える ・

監修・制作：淑徳大学コミュニティ政策学部矢尾板俊平研究室

協力：Research Institute for Social Mission, Social Design Labo

情報を集めよう

下記のキーワードに関連する新聞記事を集めて、自分が重要だと思うところに、線を引いておきましょう。また、政府や自治体がどのような取り組みをしているのかを調べておきましょう。

キーワード

「予算」、「公債発行」、「財政の持続可能性」、「財政再建」、「消費税」

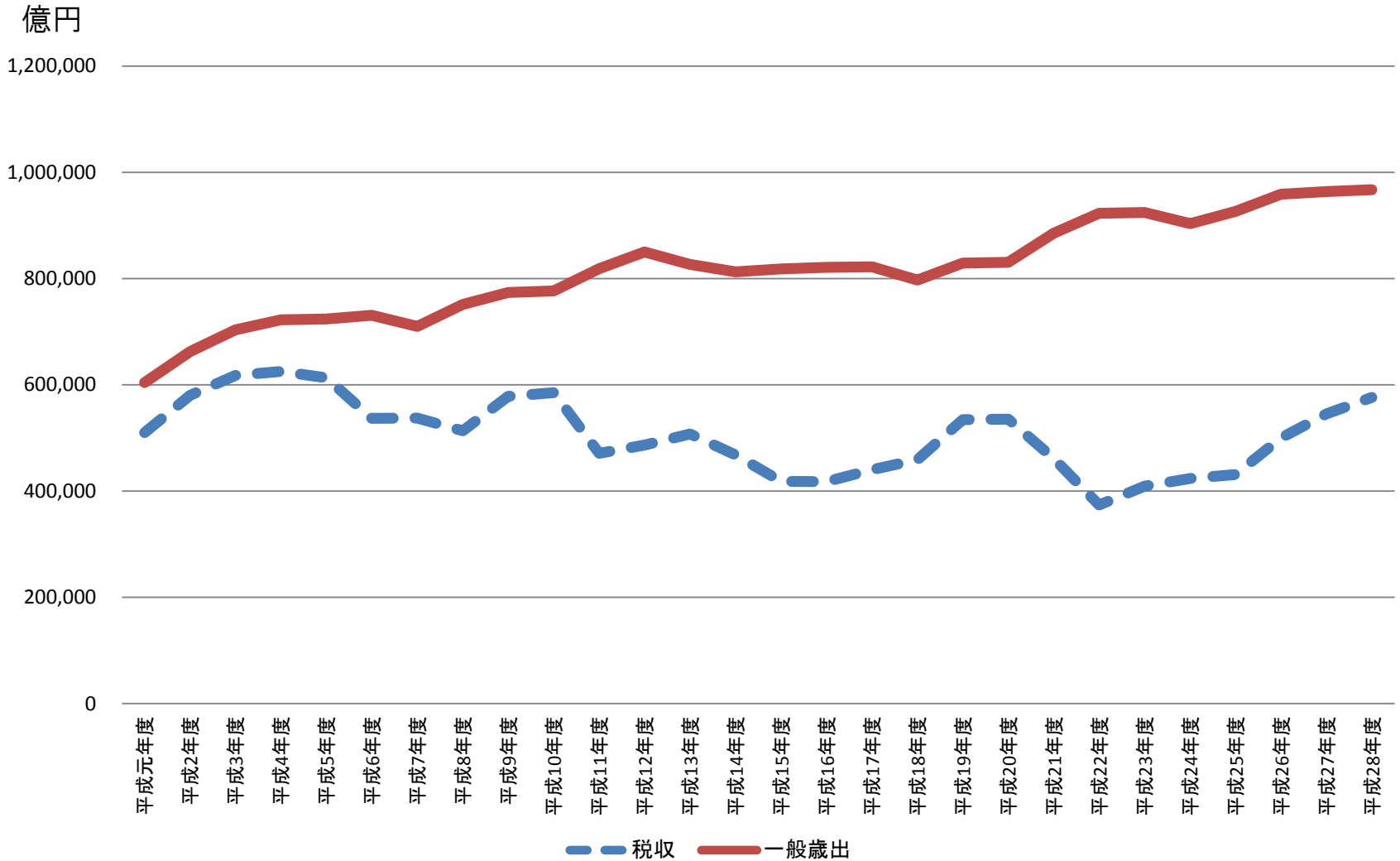
みんなで話してみよう

テーマ

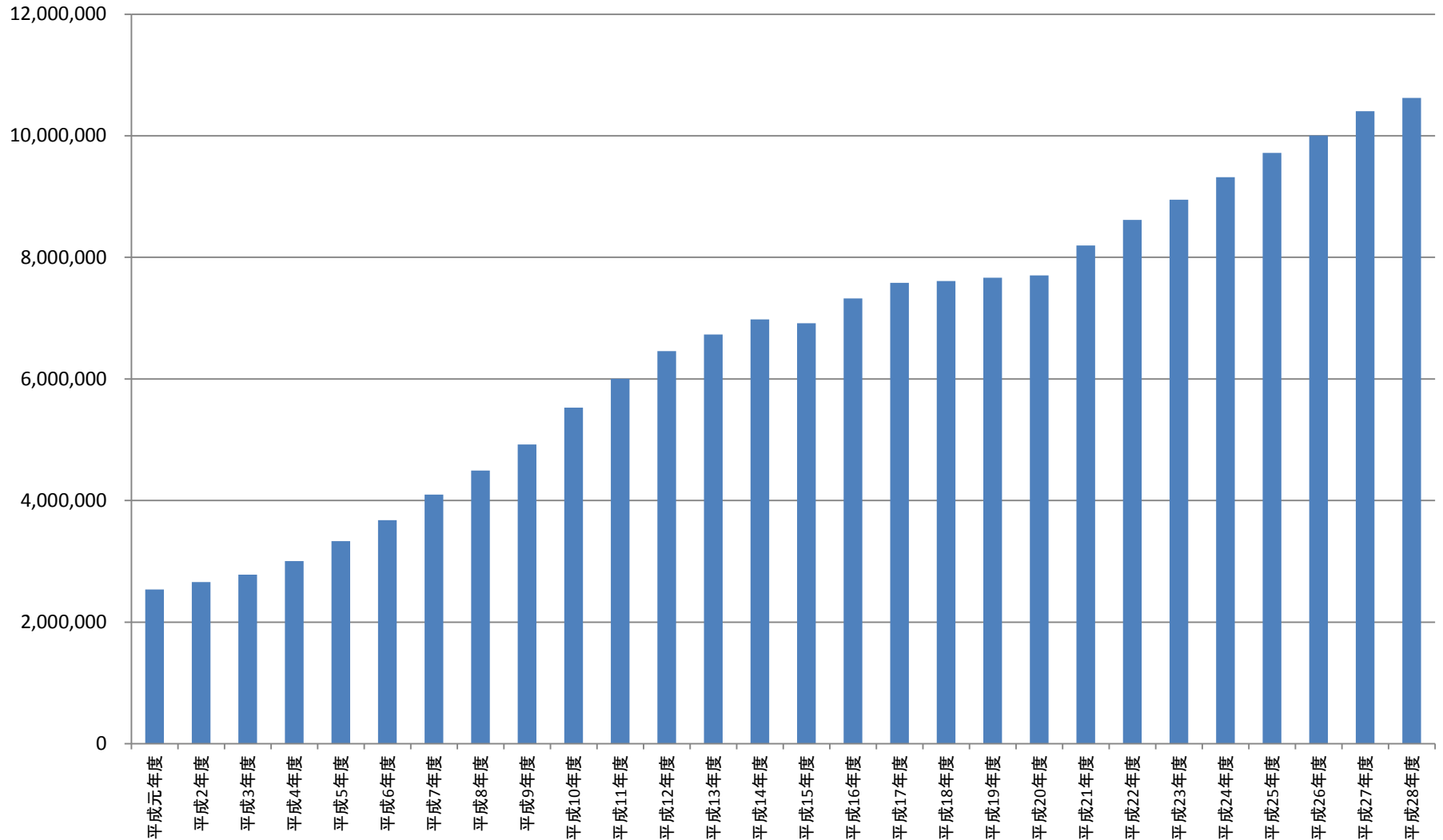
消費税増税は、必要だと思いますか？

必要だと思う人は、なぜ必要か、必要ではないと思う人は、なぜ必要なのかを説明してください。

平成以降の財政の状況

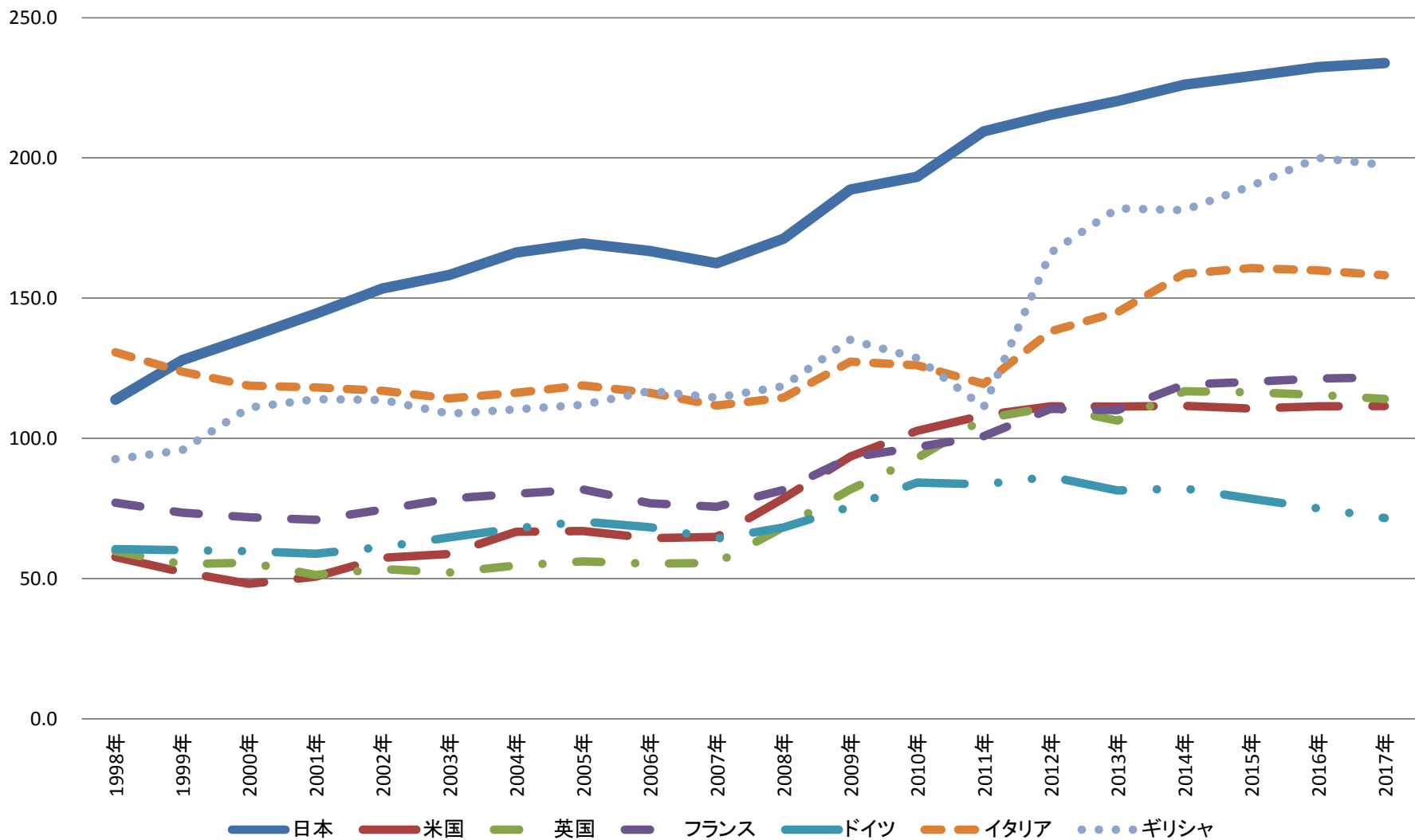


長期債務残高の推移



出所：財務省「我が国の財政事情」（平成27年12月）

一般政府負債のGDP比(国際比較)



気が付いたことをメモしよう

このままでは、どうなってしまうだろう？

付箋紙を使って、データを見て思ったこと、感じたことを、なんでもいいから書き出してみましよう。

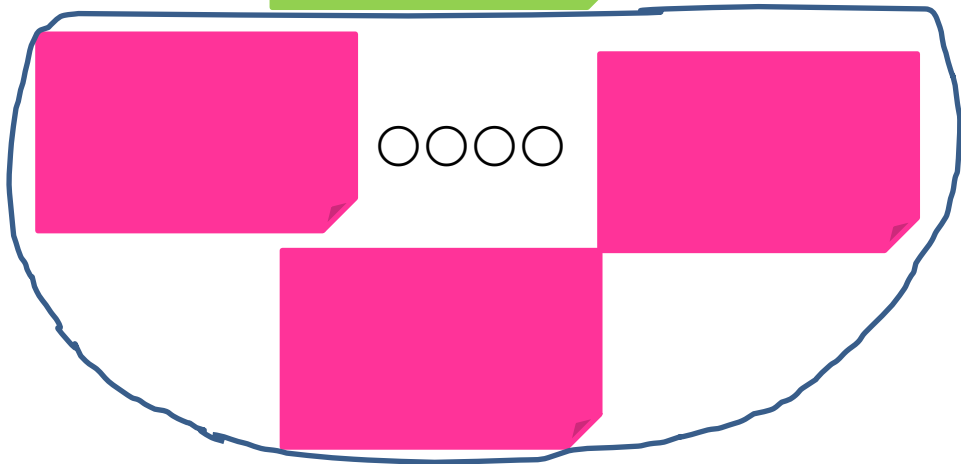
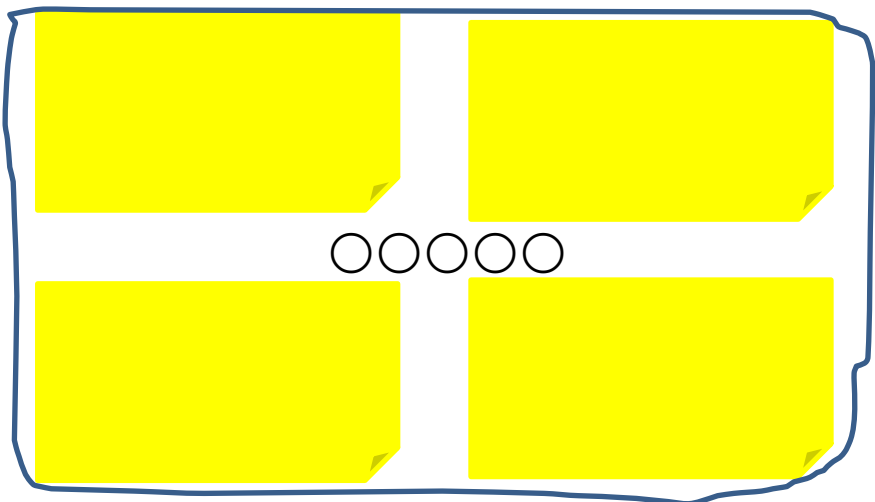
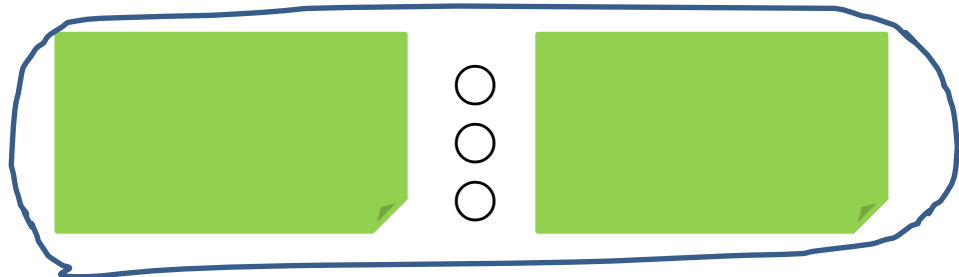
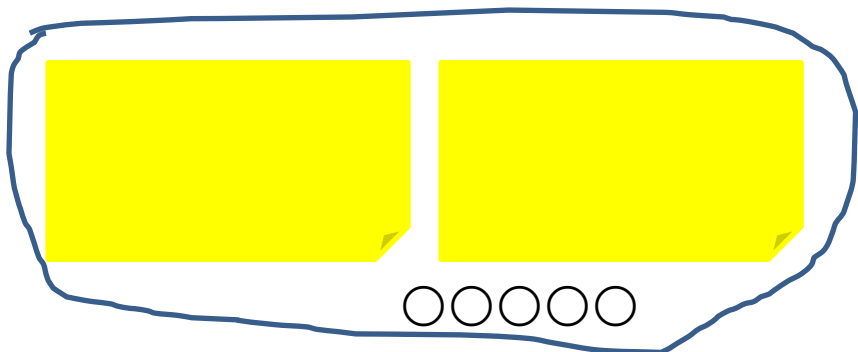
黄色の付箋紙には、「良いと思ったこと」、緑の付箋紙には「問題」と思ったこと、ピンクの付箋紙には、「これからやった方がいい」と思ったことを、一枚にひとつの内容を書いていき、全部で6枚作ってみよう



みんなの意見をまとめてみよう

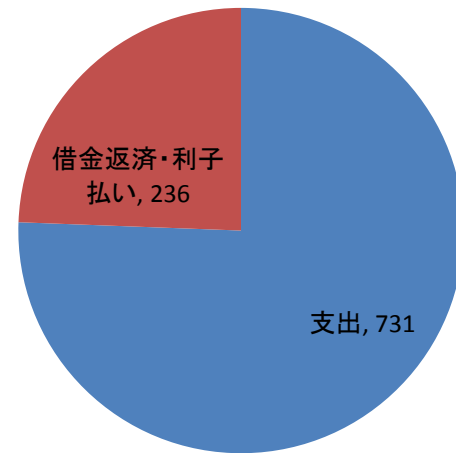
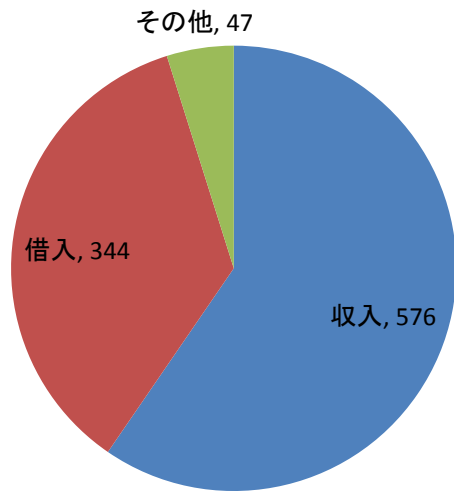
みんなが書きだした付箋紙を集めて、まとめて、発表してみよう。

まず付箋紙を色ごとに集めてみましょう。次に似た者同士を集め、色マジックで似た者同士を線で囲み、それぞれの共通項と思う言葉でタイトルを付けましょう。



財政を家計簿で例えると・・・

- 平成28年度予算では、歳出総額は967,218億円となりました。ここで家計簿に例えるために、1年間で約967万円の支出と考えましょう。
- この家計では、給料が約576万円入ってきていますが、支出が731万円かかっています。また、これまでの借金や利子の支払いに236万円がかかっています。足りないお金は、391万円となり、47万円は給料以外の収入があるものの、新たに344万円の借金をしています。



こうして生まれた借金は、現役世代はもちろん将来世代も負担することになります。借金には、利子も付きますので、その負担は「雪だるま」式で増えてしまう、これが借金の大きな問題となってしまいます。

将来財政の推計

試算結果(2)「必要な収支改善幅」(実質経済成長率2.0%・名目経済成長率3.0%のケース)

- 現行制度・施策を前提とし、収支改善を行わなければ、債務残高対GDP比は発散(ベースライン①)。
- 債務残高対GDP比を2060年度に100%に低下させるために必要なS1は、11.94%。債務残高対GDP比を将来にわたり安定させるために必要なS2は、10.57%。
- 今後、「中期財政計画」を踏まえて収支改善を行い、2020年度に国・地方PB黒字化目標を達成したとしても、高齢化等に伴う「年齢関係支出」と利払費の増加により、結局、債務残高対GDP比は発散する(ベースライン②)。したがって、目標達成後も更なる収支改善努力が必要。この場合に必要な収支改善幅は、S1:8.20%、S2:7.21%。

I. <必要な収支改善幅(S1、S2)とその構成要素>

実質成長2.0% 名目成長3.0%	債務残高対GDP比	収支改善幅	構成要素				
			IBP(1)	IBP(2)	COD	DR	COA
現行制度を前提 (試算①)	S1:2060年度に100%	11.94%	3.92%	1.69%	0.84%	3.16%	2.32%
	S2:2060年度以降安定	10.57%	3.92%	1.67%	-	-	4.97%
2020年度に 国・地方PB均衡を前提 (試算②)	S1:2060年度に100%	8.20%	0.60%	1.66%	0.58%	3.04%	2.32%
	S2:2060年度以降安定	7.21%	0.60%	1.63%	-	-	4.97%

<指標の構成要素>

- 初期時点不均衡(IBP(1))：収支改善開始時点(2020年度)のPB赤字を解消するために必要な収支改善
- 初期時点不均衡(IBP(2))：利払費の増加による債務残高対GDP比の増加に対応するために必要な収支改善
- 遅延コスト(COD)：現時点直ちにはなく、複数年(2021~2026年度)をかけた収支改善を前提とする場合に追加的に必要な収支改善(例えば、S1で2020年度の国・地方PB均衡を前提とする場合、2026年度までかけた更なる収支改善を想定)
- 債務残高引下げ要因(DR)：現時点の債務残高対GDP比を一定値(2060年度に100%)に引き下げるために必要な収支改善
- 高齢化コスト(COA)：高齢化に伴う将来の歳出増に対応するために必要な収支改善

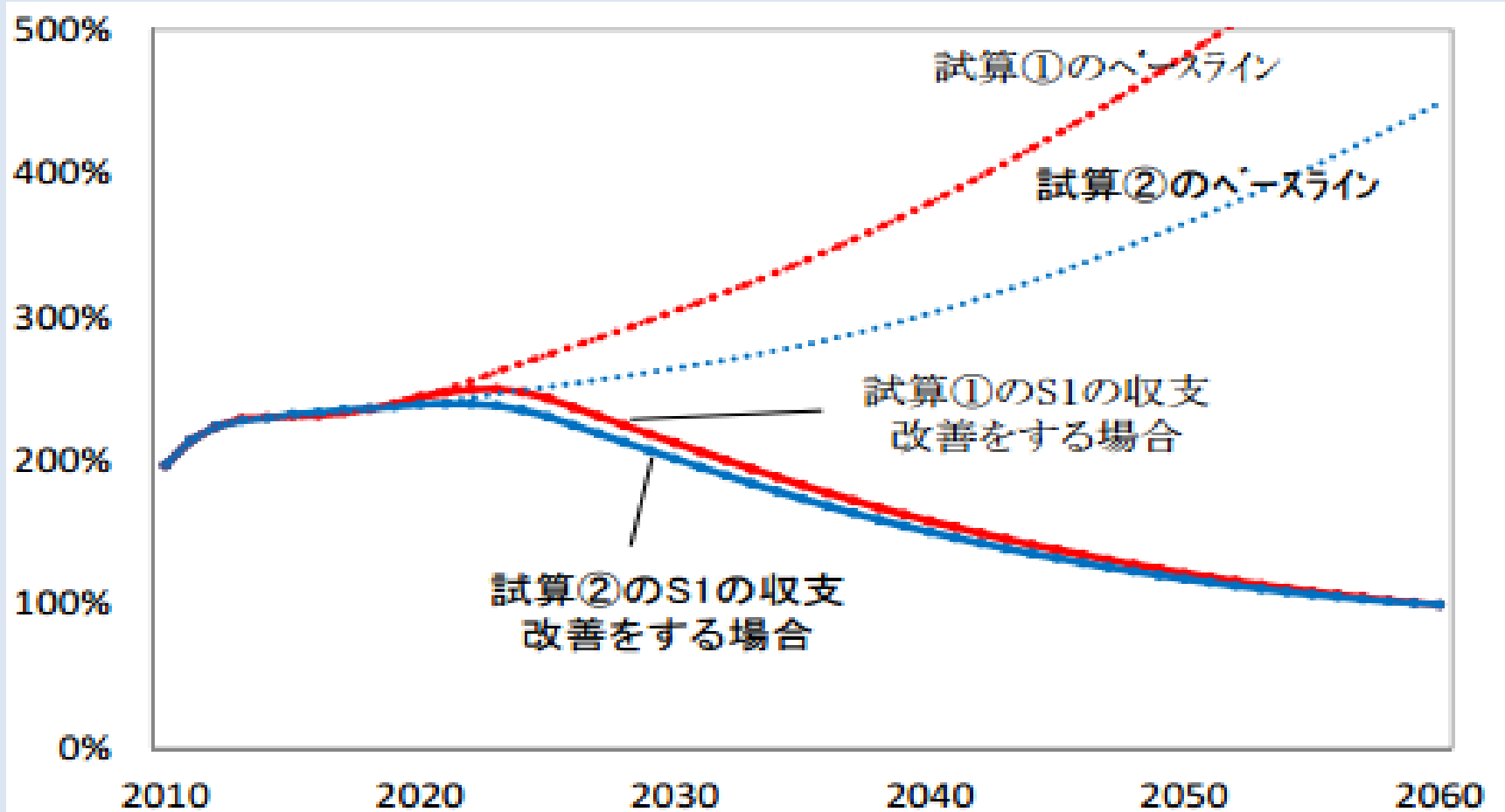
出所：財務省財政制度等審議会財政制度分科会資料(平成26年4月28日)

「資料7-1我が国の財政に関する長期推計(概要)」より抜粋

将来財政の推計

(対GDP比)

一般政府の債務残高(対GDP比)



出所：財務省財政制度等審議会財政制度分科会資料（平成26年4月28日）
「資料7-1我が国の財政に関する長期推計（概要）」より抜粋

気が付いたことをメモしよう

これからどうすればいいのだろうか？

付箋紙を使って、データを見て思ったこと、感じたことを、なんでもいいから書き出してみよう。

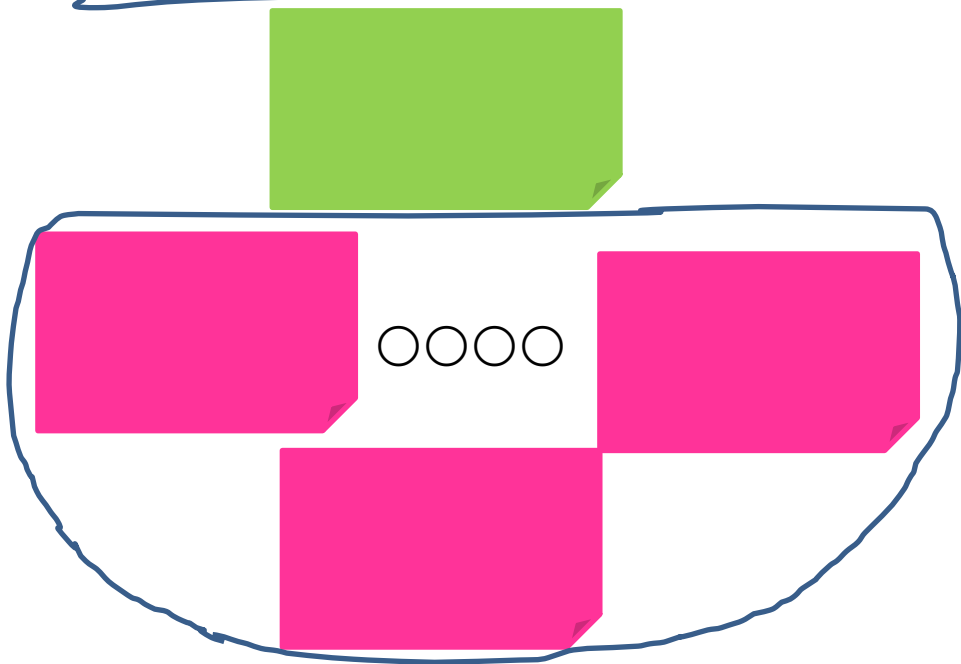
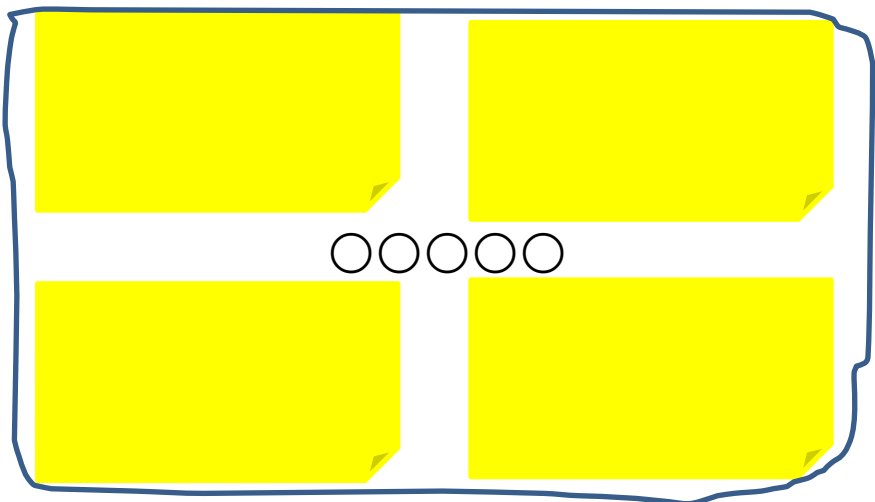
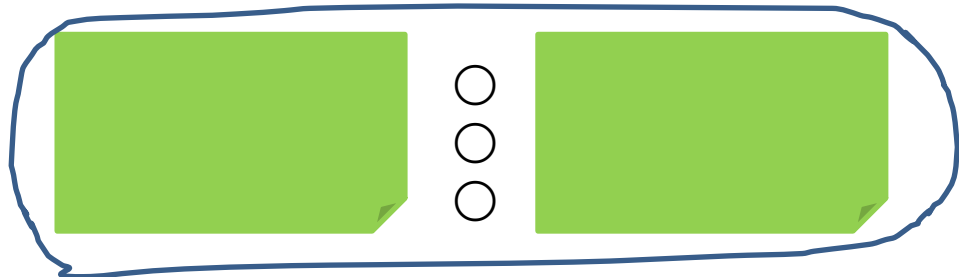
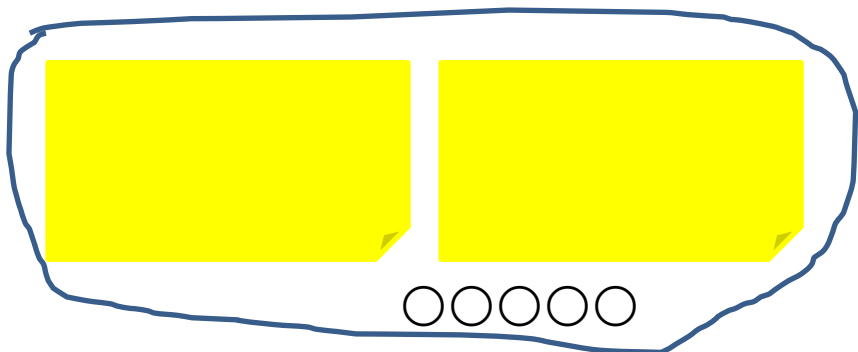
黄色の付箋紙には、「良いと思ったこと」、緑の付箋紙には「問題」と思ったこと、ピンクの付箋紙には、「これからやった方がいい」と思ったことを、一枚にひとつの内容を書いていき、全部で6枚作ってみよう



みんなの意見をまとめてみよう

みんなが書きだした付箋紙を集めて、まとめて、発表してみよう。

まず付箋紙を色ごとに集めてみましょう。次に似た者同士を集め、色マジックで似た者同士を線で囲み、それぞれの共通項と思う言葉でタイトルを付けましょう。



話し合ったことをまとめよう

これから「財政再建」を進めていくためには、どのような取り組みが必要かを考えていきます。

消費税増税は、どのような影響を持つだろうか？

歳出削減は、可能なのだろうか？

という視点も考えながら、これまで話し合ってきたこと、考えたこと、思ったことを、「現状」、「課題」、「やるべきこと」を、グループでまとめてみましょう。

現状	課題
	やるべきこと

政策を考えよう

これまで考えてきたこれから「財政再建」を進めていくための方法を、発表できるようにまとめましょう。

政策プラン名を「キャッチフレーズ」的に表現すると・・・

政策プランを「3つの柱」にまとめて、説明しよう